

渡良瀬川流域治水プロジェクト【位置図】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

R3.3策定

R4.3更新

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、利根川水系渡良瀬川においても、上流域は山間部を流れ河床勾配が急であり土砂流出が多いという流域の特性があり、下流部へ洪水を安全に流下させるために中橋架替や砂防施設の整備といった事前防災対策を進める必要があり、国管理区間においては、戦後最大の昭和22年9月カスリーン台風と同規模の洪水に対して、資産の集中する地域での越水を防止し、流域における浸水被害の軽減を図る。



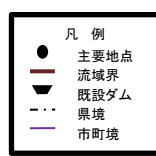
砂防施設の整備(足尾砂防堰堤)



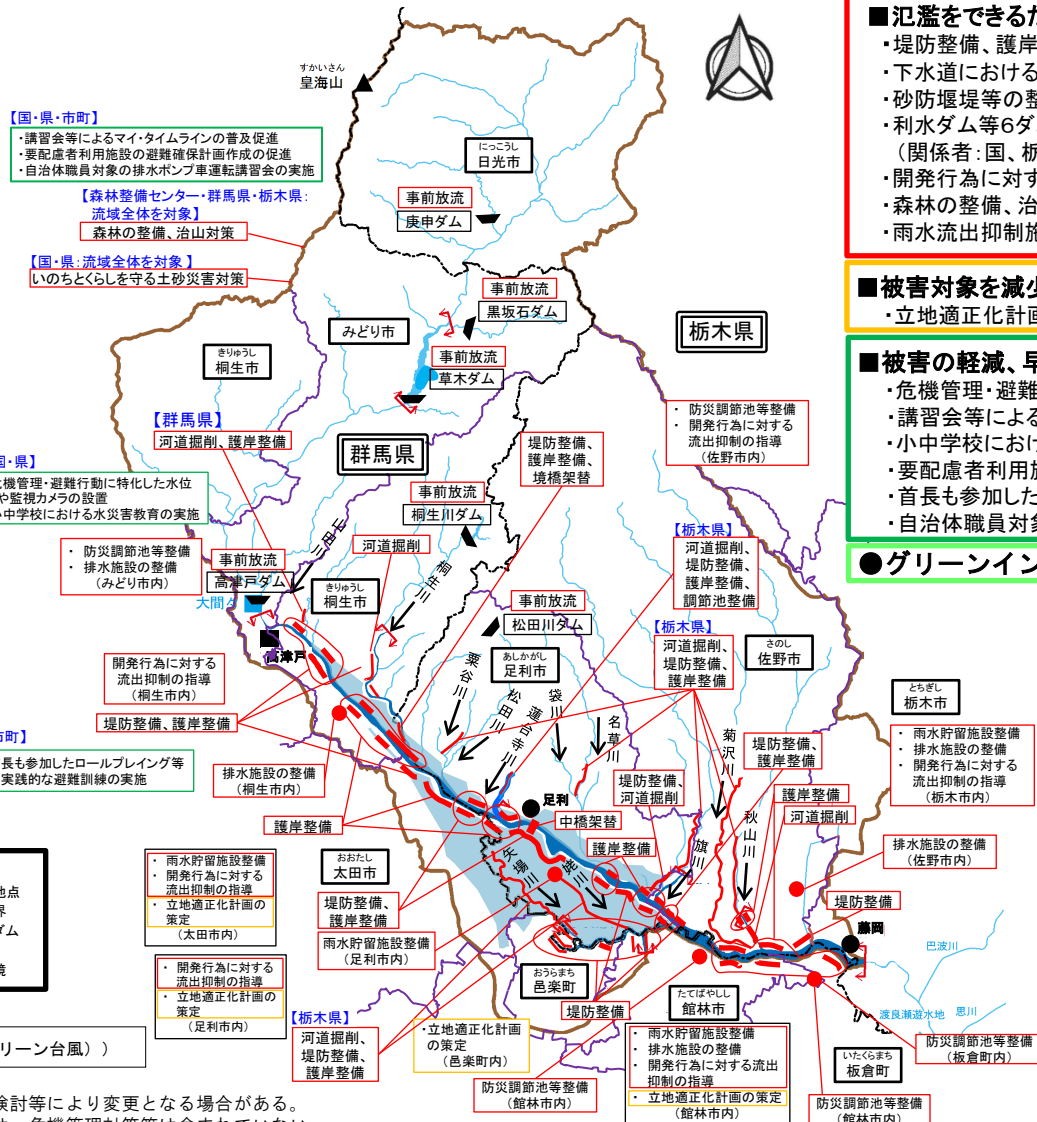
小中学校における水災害教育の実施



首長も参加した実践的な避難訓練の実施



浸水範囲(昭和22年9月洪水実績(カスリーン台風))



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、護岸整備、河道掘削、橋梁架替 等
- ・下水道における雨水貯留施設、排水施設の整備
- ・砂防堰堤等の整備(いのしとくらしを守る土砂災害対策)
- ・利水ダム等6ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、栃木県、群馬県、水資源機構)
- ・開発行為に対する流出抑制の指導
- ・森林の整備、治山対策
- ・雨水流出抑制施設整備(雨水貯留施設、防災調節池等)

■被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の策定

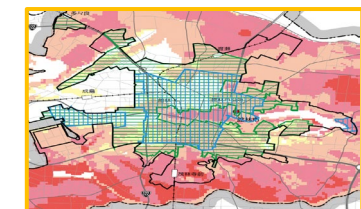
■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・危機管理・避難行動に特化した水位計や監視カメラの設置
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- ・小中学校における水災害教育の実施
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・首長も参加したロールプレイング等の実践的な避難訓練の実施
- ・自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施 等

●グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ



橋梁架替(中橋)



立地適正化計画の策定(館林市)

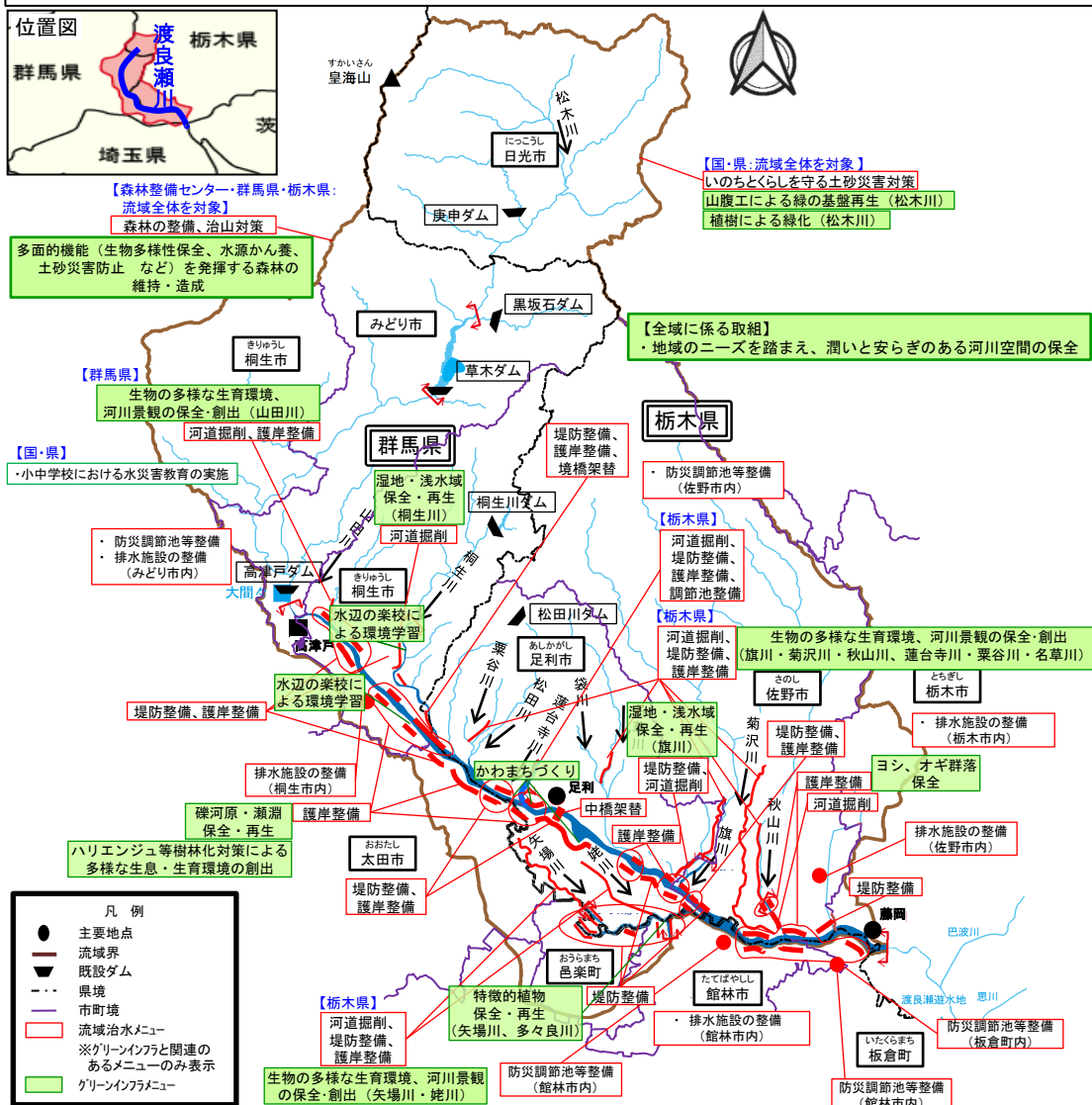
渡良瀬川流域治水プロジェクト【位置図】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

●グリーンインフラの取り組み『地方都市のまちづくりと一体となった、賑わい、美しい景観、豊かな自然環境を備えた水辺空間の創出』

○渡良瀬川の自然環境は、長い年月をかけ、渓谷、湿地、礫河原、ヨシ原等の多様な環境を形成してきました。また、高水敷にはグラウンド、公園、ゴルフ場等が多く、散歩やスポーツに広く利用されています。近年、レクリエーション空間の確保、自然環境の保全等の河川環境に対するニーズが高まり、かつ多様化してきています。

○新とちぎ観光立県戦略では観光客入込数が2025年に現状値を上回ることを目標としており、栃木県の目標に寄与できるよう、概ね2024年までに足利市のかわまちづくり（岩井地区・五十部地区）をはじめ流域の拠点となる箇所での取り組みを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



●治水対策における多自然川づくり

- ・礫河原保全・再生
- ・瀬淵保全・再生
- ・ヨシ、オギ群落保全
- ・湿地保全・再生
- ・浅水域保全・再生
- ・特徴的植物保全・再生
- ・ハリエンジュ等樹林化対策による多様な生息・生育環境の創出
- ・山腹工による緑の基盤再生
- ・整備における生物の多様な生育環境、河川景観の保全・創出

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・かわまちづくり（足利市）

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・水辺の楽校による環境学習
- ・植樹による緑化
- ・多面的機能（生物多様性保全、水源かん養、土砂災害防止 など）を発揮する森林の維持・造成



小学生による体験植樹



ハリエンジュ等樹林化対策（礫河原再生）



かわまちづくり（足利市）



水辺の楽校による環境学習

渡良瀬川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

R3.3策定

R4.3更新

- 渡良瀬川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町等が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】渡良瀬川下流部堤防整備として秋山川(直轄区間)の堤防整備を完了するとともに、砂防施設の整備や、利水ダム等における事前放流等の実施や森林の整備、治山対策を実施する。
 - 【中期】中橋の架替完了とともに、雨水貯留施設の整備、排水施設の整備や小中学校における水災害教育を引き続き実施する。
 - 【中長期】上流部の堤防整備を完了し流域全体の安全度向上を図るとともに、首長も参加した実戦的な避難訓練や立地適正化計画による水害に強い地域への誘導を引き続き実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	下流部堤防整備、護岸整備、河道掘削等	国・県	秋山川(直轄区間)堤防整備完了	下流部の堤防整備完了	
	上流部堤防整備、護岸整備、河道掘削等	国・県			上流部の堤防整備完了
	橋梁架替(中橋等)	国・県・市		中橋架替完了	境橋架替完了
	砂防堰堤等の整備(いのちとくらしを守る土砂災害対策)	国・県		砂防堰堤施設の保全・整備等	
	利水ダム等における事前放流等の実施	県・水資源機構	協定締結		
	森林の整備、治山対策	森林整備センター・県	除間伐等の森林整備等		
	下水道における雨水貯留施設の整備、排水施設の整備	市町		雨水貯留施設、雨水貯留浸透施設等の整備	
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画による水害に強い地域への誘導	市町		水害リスクの少ない居住誘導区域への誘導等	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	小中学校における水災害教育の実施	国・県		各小中学校において水災害教育(講習会)を実施	
	首長も参加したロールプレイング等の実践的な避難訓練の実施	市町		要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進等	
グリーンインフラの取組		次ページ参照			

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

※ ■■■■■■ :対策実施に向けた調整・検討期間を示す。

■河川対策

全体事業費 約569億円

対策内容 堤防整備、河道掘削、橋梁架替 等

■砂防対策

全体事業費 約341億円

対策内容 砂防堰堤の整備 等

■下水道対策

全体事業費 約62億円

渡良瀬川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
グリーンインフラの取組	礫河原保全・再生 瀬淵保全・再生 ヨシ、オギ群落保全 湿地保全・再生 浅水域保全・再生 ハリエンジュ等樹林化対策による 多様な生息・生育環境の創出 生物の多様な生育環境、河川景観の保全・創出	国・県			
	特徴的植物保全・再生	国			
	山腹工による緑の基盤再生 植樹による緑化 多面的機能(生物多様性保全、水源かん養、土砂災害防止 など)を発揮する森林の維持・造成	国・森林整備センター・県			
	かわまちづくり(足利市)	国・市			
	水辺の楽校による環境学習	国			
	地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援	国			

かわまちづくり整備完了

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

渡良瀬川流域治水プロジェクト

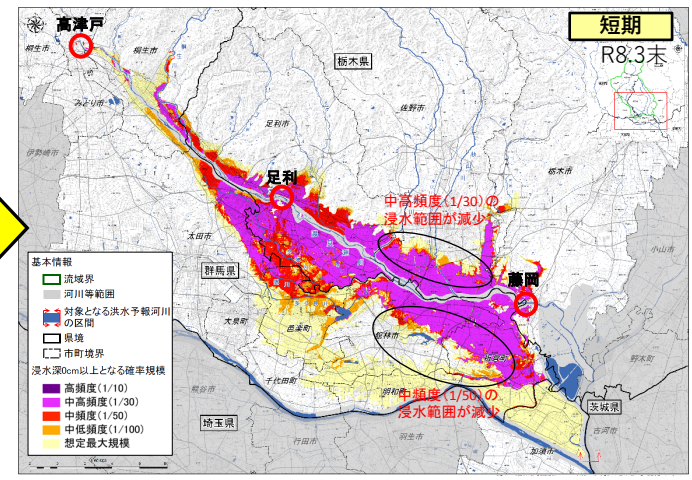
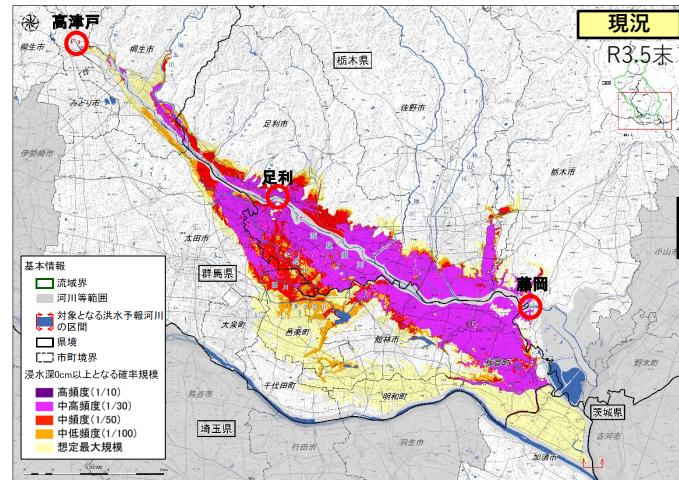
～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

進捗と効果 (R5.3版)

短期整備 (5カ年加速化対策) 効果 : 河川整備率 約90%→約92% (整備計画規模)

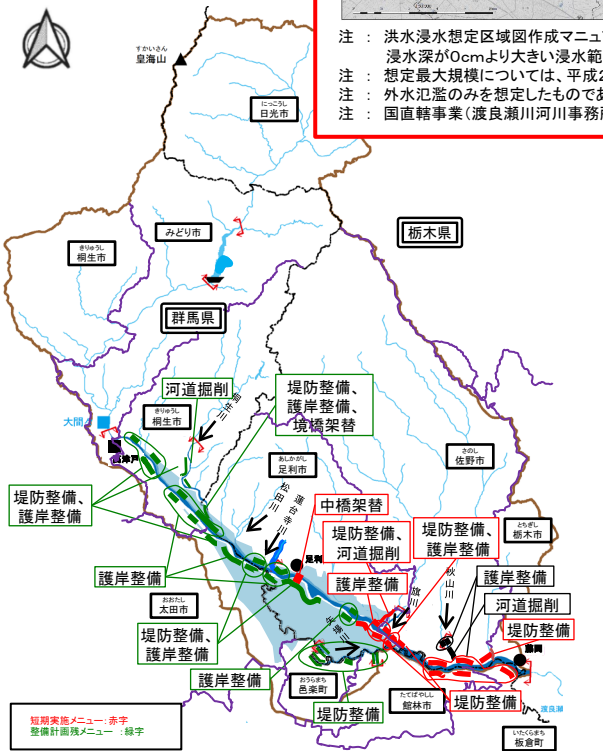
本川の佐野市高山地区の堤防整備が令和7年度までに完了することにより、秋山川合流点より下流において河川整備計画目標流量を安全に流下させることが可能。これにより、秋山川合流点より下流沿川市街地の浸水被害を軽減することが可能。

実施箇所・対策内容



注：洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)に基づき、渡良瀬川(直轄管理区間(渡良瀬川河川事務所のみ))が氾濫した場合に、浸水深が0cmより大きい浸水範囲をシミュレーションにより予測したものである。
 注：想定最大規模については、平成28年8月に公表した洪水浸水想定区域図である。
 注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。
 注：国直轄事業(渡良瀬川河川事務所のみ)の実施によるものであるが、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

算出の前提となる降雨(72時間総雨量)
 ○渡良瀬川、桐生川、旗川、秋山川
 高頻度 (1/10): 280mm 中頻度 (1/30): 354mm 中頻度 (1/50): 388mm
 低頻度 (1/100): 434mm 想定最大規模: 812mm
 ○矢場川、第二捷水路、多々良川
 高頻度 (1/10): 198mm 中頻度 (1/30): 248mm 中頻度 (1/50): 270mm
 低頻度 (1/100): 301mm 想定最大規模: 944mm



区分	対策内容	区間	工程		
			短期	中期	中長期 (～R29年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備 本川	①上流部	R4		100%
		②下流部	100%		
	堤防整備 支川	③秋山川	100%		
		④旗川・桐生川・矢場川	約30%		100%
	護岸整備 0%→100%	⑤本川・支川	約20%		100%
	河道掘削 0%→100%	⑥支川	約50%		100%
	橋梁架替 0%→100%	⑦中橋	約50%	100%	
		⑧境橋			100%

【短期整備完了時の進捗】
 ②堤防整備 本川下流部
 0%→100%
 ④堤防整備 旗川・桐生川・矢場川
 0%→約30%
 ⑤護岸整備 本川・支川
 0%→約20%
 ⑥河道掘削 支川
 0%→約50%
 ⑦橋梁架替 中橋
 0%→約50%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

渡良瀬川流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

R5.3更新

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：92%

（概ね5か年後）

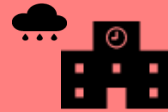
農地・農業用施設の活用



2市町村

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



101施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 100箇所
（令和4年度実施分）

砂防関連施設の
整備数 2施設
（令和4年度完成分）

※施行中 17施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市町村

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水
想定区域 575河川
（令和4年9月末時点）
※一部、令和4年3月末時点

内水浸水
想定区域 0団体
（令和4年9月末時点）

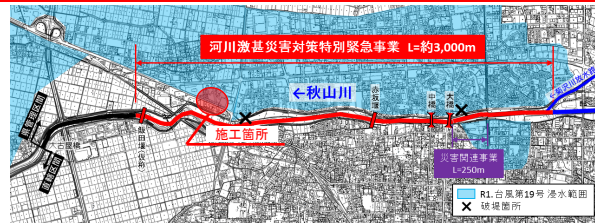
高齢者等避難の実効性の確保



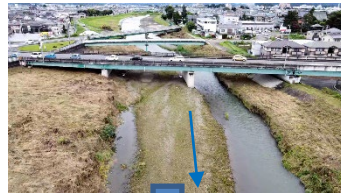
避難確保 洪水 993施設
計画 土砂 114施設
（令和4年9月末時点）

個別避難計画 8市町村
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



①対策前



②対策後



新海陸橋下流

栃木県では、令和元年東日本台風により生じた甚大な被害を踏まえ、河川激甚災害対策特別緊急事業等により、秋山川の河道掘削や築堤を実施。

被害対象を減少させるための対策



ワークショップ開催状況

足利市では、将来の人口減少を見据えて、人口規模に見合った「コンパクトなまちづくり」を目指し、そのための指針として、「足利市立地適正化計画」を策定中。

本計画では、災害リスクの回避あるいは低減に必要な防災・減災対策を検討し、実現に向けたスケジュールと目標値を設けることで、対策の進捗を図る。

計画の策定においては、アンケート、ワークショップ、説明会、意見公募により市民の皆様から意見を募集・考慮し、計画に反映する。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



講習会開催状況

群馬県では、市町村のマイ・タイムライン作成支援体制を構築するため、県職員が講師となるモデル地区講習会を進めている。令和3年度には、桐生市・太田市の協力を得て開催した。

また、県民一人ひとりがマイ・タイムラインを作成できるよう県公式YouTubeチャンネル「tsulunots」にマイ・タイムライン作成動画を公開。